

元氣と希望の湧く真庭市に

真庭市長 太田 昇

新年、明けましておめでとうございませう。皆さまには、希望あふれる輝かしい新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

少子高齢化が進む社会の中で日本の農山村全体が厳しい中ではありますが、真庭市は比較的「元氣」だと思っています。平成26年の製造品出荷額が24年より7・6割、給与総額が11・1割伸びており、27年の合計特殊出生率は何と2・21に。また、バイオマスツアール「里山資本主義」真庭の発信により、真庭市が全国的に売られています。市の建築物や諸事業に多くの賞を頂きました。市内各地では地域の振興事業が取り組まれていきます。高校生の全国大会などへの出場、オリンピック選手、日展特選などスポーツ、文化芸術面での市民の活躍……。このように、市民の方々、多くの団体の頑張りによって、いろいろな成果が始めています。

当然、課題も多々ありますが、高校生をはじめ多くの市民の参加により策定した総合計画や総合教育大綱に基づき、市民力を結集し

たまちづくりを進めていけば、永続的に繁栄する「杜市（とし）」にしていけることができると確信しています。農業、林業の地域資源を活かし循環させるとともに、自然再生エネルギー利用を拡充し、さらに、環境にも優しい地域にしてまいります。

このような事業を推進するのは「ひと」です。バイオマス発電所からの1億円、善意の1千万円の寄付などを含め懸命に調達し設立した「真庭市未来を担う人応援基金」10億円を有効に活用して、教育、産業、福祉、文化など、あらゆる分野でふるさと真庭のために頑張る「ひと」を応援していくこと、そして、子どもを産み、育てやすい環境の整備に取り組んでまいります。

市民の皆さん、多彩で豊かな暮らし「真庭ライフスタイル」を創造し、心豊かに暮らせる「元氣と希望の湧く真庭」の実現に挑戦していこうではありませんか。

結びに、皆さまのご多幸とご健勝をお祈り申し上げます、年頭の挨拶といたします。



新年のごあいさつ

市民に見える議会を目指して

真庭市議会議長 竹原茂三

新年、明けましておめでとうございます。皆さまご家族おそろいで、明るく希望に満ちた新年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年の議会改革の取り組みを振り返ってみますと、5月に「真庭市議会活性化特別委員会」が、今後真庭市議会全体で検討・取り組むべき議会活性化策を報告書として取りまとめました。

そして、議会活性化策の実現のために、6月議会で新たに「真庭市議会活性化推進特別委員会」を設置しました。政策立案・住民参加・情報公開の3つの分科会を設け、分科会を延べ36回、活性化推進特別委員会を7回開催し、調査研究を行い、市民の意見を政策立案につなげる仕組みづくり、インターネットでの政務活動費の領収書などの公開や常任委員会による各種団体との意見交換会の実施などの施策を、12月議会で最終的に報告書にまとめました。今後は、公開原則に沿って、市民の意見を聞き、活発な議論を通して、市民に見える議会を目指すとともに、

議会活性化策を積極的に実践してまいります。

このほかの主な活動として、中国横断自動車道岡山米子線における暫定2車線区間の早期4車線化を促進するために、「中国横断自動車道岡山米子線全線4車線化促進市議会連盟」を、岡山・鳥取県内の6市議会で発足させ、要望活動等を行った結果、9月には、岡山米子線の暫定2車線区間において付加車線設置区間が決定されました。

そして、11月に、前武雄市長の樋渡啓祐氏をお迎えし、「地方創生は真庭市から」議会・市民・行政それぞれの役割について」を演題に議会まちづくり講演会を開催し、ご参加いただいた多くの方々とともにまちづくりについて考える場となりました。

本市では、急激な人口減少と高齢化にいかん歯止めを掛けるかが大きな課題となっており、人口の社会増を目標に、議員一丸となり取り組んでまいります。

結びに、本年が皆さま方にとりまして輝かしい年になりますようお祈りし、新年のご挨拶いたします。

